

滋賀県立琵琶湖博物館 第三次中長期基本計画  
令和4年度事業評価報告書

滋賀県立琵琶湖博物館  
令和6年2月

## 目次

1	第三次中長期基本計画に基づいた事業計画と評価	
1A.	計画の進め方	1
	図 1 第三次中長期基本計画の目標へ向けた考え方の筋道	1
1B.	重点事業計画	2
2	評価の実施方法	
2A.	評価実施の流れとスケジュール	12
	図 2 令和 5 年度実施スケジュール	12
2B.	内部評価について	12
2C.	外部評価について	13
3	内部評価	14
	図 3 令和 4 (2022) 年度内部評価概要図	21
4	外部評価	22
5	事業計画の見直し	37

## 1 第三次中長期基本計画に基づいた事業計画と評価

### 1A. 計画の進め方

平成8（1996）年に開館した滋賀県立琵琶湖博物館は、「湖と人間」をテーマに活動をしてきました。これまでに、その使命や基本理念に沿って計画的に発展していくために、2つの中長期基本計画を策定して事業を進めてきました。令和2（2020）年度末には次の計画として第三次中長期基本計画「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館」を策定し、令和3（2021）年度からそれに沿った重点事業を中心に活動をはじめました。

第三次中長期基本計画は、10年後の社会の姿として「多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく社会。誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求・実践でき、その成果を多くの人と共有する機会を持っています。また、さまざまな人びとが出会い、学び合うことで新たな発見や活動の持続が可能になっています。」としています。このような社会の姿に向けた琵琶湖博物館の役割を担うために必要な事業目標として、6つの事業目標を設定しています。また、それら6つの目標を目指すために、各事業目標には2つないし3つの重点事業を設定し、当面5年間に実施する事業計画を立てています。

最終的に目指す目標に向けて行う事業計画は、博物館をとりまくさまざまな状況によって、当初たてた計画通りに進まないことが考えられます。そのために、各事業の計画については、さまざまな状況から常に見直しをすることが必要です。第三次中長期基本計画に基づく5年間の重点事業計画については、その年度における進捗状況の確認と評価を博物館が行い（内部評価）、その評価について滋賀県立琵琶湖博物館協議会（以下、博物館協議会）委員による評価（外部評価）を行っていただくことで、評価対象とした年度以降の重点事業の計画を見直すことで、目標に向かった事業が実施できているかを確認しながら進めます。

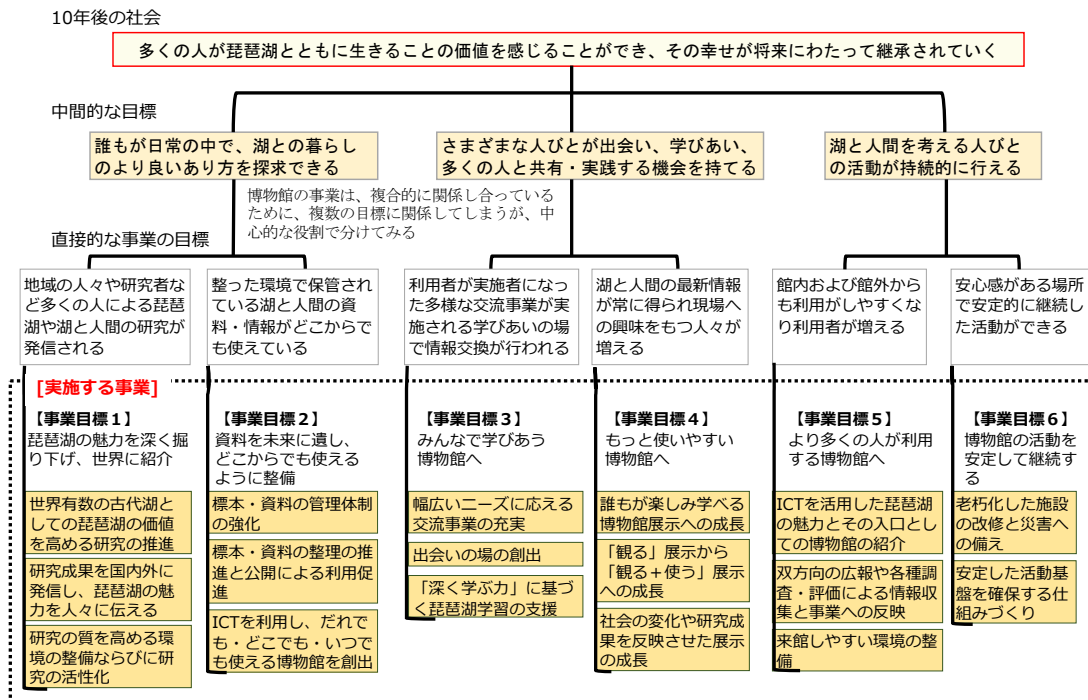


図1 第三次中長期基本計画の目標へ向けた考え方の筋道

## 1B. 重点事業計画

第三次中長期基本計画は、令和2年度末に計画されました。この中で、琵琶湖博物館が実施する重点事業の計画は、令和3年度から5年間について計画され、毎年度終了後に行う内部評価および、それを受けた外部評価、琵琶湖博物館の現状から、その計画を見直して実施していきます。以下に、当初の計画から令和3年度に見直しを行った重点事業計画を示します。

### ○事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

- ・実施目標：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。
- ・評価指標：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される。

#### 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

- ・5年間の事業：既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	各年次報告書提出。	総合研究・基盤B研究の推進。 次期総合研究の検討開始。
2022	古代湖である琵琶湖の生い立ちと固有種の進化に関する新たな知見が蓄積（基盤B）。	基盤B研究のとりまとめ。 総合研究の実施（継続）。 次期総合研究の内容・体制の検討。
2023	過去150年間の琵琶湖と人の関係の変化についての知見が蓄積。	総合研究の実施（継続）次期総合研究の内容・体制の検討。
2024	過去150年間の琵琶湖と人の関係の変化に関する研究成果のとりまとめと公開。	総合研究の成果報告の作成と企画展の実施。新総合研究の立ち上げ準備。
2025	新総合研究と共同研究群による新たな取り組みの開始。	新総合研究の実施。

#### 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

- ・5年間の事業：ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	リサーチマップの掲出と更新。 J-stageへの研究調査報告掲載。	既存の枠組みでのウェブ発信。 J-stageへの研究報告書掲載手続き。
2022	コンテンツ案策定。	ウェブ掲載コンテンツの検討。 J-stageへの研究報告書を順次掲載（以後略）。
2023	論文解説の掲載開始。	論文解説ページの整備と掲載。 琵琶湖に関する紹介ページの内容検討。

2024	琵琶湖に関する紹介ページの掲載開始。	琵琶湖に関する紹介ページの整備。
2025	琵琶湖地域に関する研究成果が、順次発信される体制が構築されている。	新コンテンツの検討。

### 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

- ・5年間の事業：耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	最新の備品更新計画策定。	備品更新計画の更新。 既存の施設備品による研究推進。
2022	微小生物の分類に関する体制が整う（電子顕微鏡）。希少種保全施設としての整備が進む（共同研究）。 順次備品が更新される。	大型備品①電子顕微鏡の調達。生物多様性共同研究による希少種保全の施設環境整備。DX事業への参入挑戦。 その他備品類の予算要求への反映。
2023	さまざまな資料の内部を非破壊観察する体制が整う（軟X線検査装置）。希少種保全の取り組み（生態観察池改良・孵化飼育設備改良）が進む（共同研究）。先端デジタル技術を活かした研究手法が開発される（DX）。	大型備品②軟X線検査装置の調達。 生物多様性共同研究の実施。 DX事業を活かした研究の実施。
2024	琵琶湖での観測体制継続（調査船）。希少種保全の取り組み（生態観察池改良・孵化飼育設備改良）が進む（共同研究）。DX事業を活かした研究の成果が蓄積（DX）。 大型備品を利用した琵琶湖の共同研究の芽が生まれる。	大型備品③調査船の更新。 生物多様性共同研究の実施。 DX事業を活かした研究の実施。 大形備品の共同利用の推進。
2025	研究環境整備と共同研究の推進による研究の活性化。	新規備品等を活用した共同利用の推進。

### ○事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

- ・実施目標：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるような、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。
- ・評価指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている。

#### 2-1. 標本・資料の管理体制の強化

- ・5年間の事業：開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	収蔵庫空間の設備の不具合の原因が把握できている。	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の情報集約。 民俗収蔵庫1の雨漏りの原因究明と修繕。

2022	問題のある設備改修の予算申請の年次計画を立案。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検。 収蔵庫空調用冷水バルブ修理／蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求。
2023	収蔵庫空間の IPM 体制の問題点が把握できている。 改修工事により改善された環境。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	IPM 体制の問題点の情報集約。 環境改善に向けた予算申請。 積み残しの問題のある設備改修の予算申請。 予算がついたものの改修工事。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。
2024	IPM 体制が改善されている。 改修工事により改善された環境。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	環境改善に向けた予算申請。 予算がついたものの改修工事。 積み残しの問題のある設備改修の予算申請。 IPM 体制の改善案を検討。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。
2025	再構築された IPM により定期的な管理体制が確立している。 改修工事により収蔵庫環境が安定している。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。	予算がついたものの改修工事。 積み残しの問題のある設備改修の予算申請。 収蔵庫環境の管理体制の構築。 空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。

## 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

- ・5年間の事業：従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されウェブ図鑑と連動したより魅力的なデータベースとなる。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。	緊急雇用による資料撮影と新規登録。
2022	ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。	資料写真整理体制の検討。
2023	資料写真整理とデータベースへの登録が進む。 ウェブ公開のための体制が整備される。	資料写真整理体制の整備。 データベース編集作業、データベース画面デザイン、ウェブ図鑑との連携、博物館ウェブページとの調整。
2024	データベース運営における問題点の抽出と改善方法の検討。	データベース運営における問題点の検討。

2025	データベースがスムーズに運営されている。	データベース運営における問題点の改善。
------	----------------------	---------------------

### 2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

- ・5年間の事業：リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	写場の設備計画の立案。多面的な音声ガイド情報が公開。	写場の設備の現状把握。多面的な音声ガイド情報の整備。
2022	写場の設備更新が始まる。 3D コンテンツを含むウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報（3D コンテンツを含む）の蓄積が進む。	写場の設備を更新。 ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積。
2023	写場の設備が整えられている。リニューアル後の常設展示資料情報が整理されている。ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3D コンテンツの蓄積が進み、一部が公開される。	リニューアル後の常設展示資料情報の整理。
2024	リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針が決定している。 写真、動画、3D コンテンツの蓄積と、ウェブ図鑑としての公開が進む。	リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針を策定する。 ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3D コンテンツの蓄積。 ウェブ図鑑公開システムの追加公開。
2025	リニューアル後の常設展示資料情報と連携したウェブ図鑑の公開。	リニューアル後の常設展示資料情報の公開における問題点の改善。

### ○事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

- ・実施目標：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。
- ・評価指標：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる。

#### 3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実

- ・5年間の事業：利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	琵琶湖博物館全体の交流事業の現状が把握される。	これまでの交流事業の実績を他の係の実施分も含めて整理し、現状を把握する。

2022	交流事業の充実のための計画や方針が策定される。	博物館が提供できる（すべき）交流事業の候補をリスト化し、さらにびわ博フェス等でニーズの確認を行う。 その結果をもとに交流事業の充実のための方針を策定する。
2023	次年度以降の計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む。	交流事業の充実のため、はしかけ、外部団体等が主体となって実施するメニューの企画を実施内容に沿った担当学芸職員と相談しながら進める。継続的にニーズ調査を行う。
2024	多様な実施者によるメニューが試験的に行われ、課題が改善される。	はしかけ、外部団体等が主体となったメニューの実施とその改善を行う。
2025	交流事業が充実するとともに、実施者も多様化する。	館内外の人びとと共に、5年間の交流事業の実践を検証する。

### 3-2. 出合いの場の創出

- ・5年間の事業：フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出合い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、利用者層の多様性や連携性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業等の参入を促すため団体向けの「はしかけ制度」的なものを作る。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	登録制度の概要についての整理。	団体向け登録制度に関する情報収集。
2022	制度運営に必要な要項が整備される。	団体向け登録制度の詳細内容を検討し、要項を定める。
2023	びわ博フェスへの参画者層と実施者層の多様性が図られる。	登録制度を活用したびわ博フェスの実施を通じて、双方にとっての課題整理と制度の見直しを行う。
2024	多様化した団体の参入により、新しいびわ博フェスの開催や交流事業における新たな連携や交流が進む。	より改善された登録制度を通じて、カテゴリー別に増やした多様な登録団体とともに、新しいびわ博フェスの運営と企画などを行う。
2025	多様な出合いの機会が増え、交流事業の新たな可能性を見出せる。	様々な個人と団体が博物館を利用して活動や連携の機会を増やし、新しくなったびわ博フェスを中心に団体登録制度や運営の見直しを行う。

### 3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

- ・5年間の事業：「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。



年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	教師が「体験」的な教材を生み出すために役立つ研修の構築。	研修内容の見直しと試験的实施。事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集。
2022	受講者の意識向上を指標に研修が改良される。	研修の見直しと試験的实施。事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集（以後、実施）。
2023	受講者自身が体験を重視した学習プログラムを展開できる。	学校現場の実態を把握しながら、受講者に助言を行う。
2024	受講者が自ら発案した体験学習プログラムに改良を加え実施し、他の教員と共有する。	改善されたプログラムの実績を収集し、改善前のプログラムと比較検討をする。
2025	体験的な教材を主体的に生み出すことができる受講者が増加し、他の教員も体験的学習プログラムを実施することができる。	受講者からの評価を受け、5年間の実践を検証する。

#### ○事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

- ・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。
- ・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える。

##### 4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

- ・5年間の事業：視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	採用する手法の候補が決まる。	ガイド手法についての情報収集。
2022	展示室においてテストが行われ、実現性や課題が明らかになる。	ガイド手法の試行。
2023	新しい手法によるガイドの内容が検証され、より拡大した使い方の検討が行えるようになる。	新しい方法に合わせた常設展示解説の内容について内部で検討、さらに追加・拡大の計画を策定作成と配置開始。
2024	効果測定に基づく改良と解説項目の増加が進む。	展示解説の作成と配置開始、および解説の追加・改良、小規模な効果の検証（評価）。
2025	常設展示室の展示の大半に解説がつき、アクセシビリティが向上する。	解説の追加、改良。利用者による評価。

#### 4-2. 「観る」展示から「観る＋使う」展示への成長

- ・5年間の事業：展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業5-1で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	方法の検討と小規模な試行。	方法の検討と小規模な試行。
2022	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みについて情報が得られる。	博物館から現場の情報を取得する仕組みを一部の展示を使って試し、展示室外の情報へのアクセス数などを検証。
2023	展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みが強化される。	博物館から現場の情報を取得する仕組みを試す範囲を拡げると同時に、取得する情報の内容を精査。
2024	展示室から外の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ利用方法が来館者に認知されるようになる。	博物館から現場の情報を取得する内容について検証し、必要な情報のブラッシュアップおよび追加を行う。
2025	展示室と現場をつなぐ楽しみ方の認知が広がり、一般に利用されるようになっている。	仕組みの充実。

#### 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

- ・5年間の事業：常設展示の情報の見直しと修正を検討し、予算が削減された状態でも可能な展示更新を実施、今後の大規模更新に備えて準備を行う。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	C展示・水族展示の更新計画。	C展示・水族展示の更新計画を策定。
2022	C展示・水族展示の小規模な更新。	経常予算でのC展示・水族展示の更新、予算規模に合致した更新計画の見直し。
2023	C展示・水族展示の小規模な更新、C展示・水族展示の大型更新のための予算要求提出。	C展示・水族展示の小規模な更新、予算措置が必要な更新（一部）の予算編成。
2024	C展示・水族展示の更新の一部実現。 A展示・B展示の更新計画。	C展示・水族展示の大型更新（一部）の実施、A展示・B展示の更新計画を策定。
2025	C展示・水族展示の更新の一部実現、A展示・B展示の更新の一部実現。 A展示・B展示の大型更新のための予算要求提出。	展示・水族展示の大型更新（一部）の実施、経常予算でのA展・B展の更新。 A展示・B展示の予算措置が必要な更新の予算編成。

#### ○事業目標5 より多くの人が利用する博物館へ

- ・実施目標：ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物

館の魅力向上に役立てます。

- ・評価指標：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える。

#### 5-1. ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

- ・5年間の事業：ウェブサイト「もう一つの琵琶湖博物館」（バーチャルミュージアム）と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖（湖と人間）について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	発信計画の素案ができる。 ウェブサイト改良の第一段階が終了。 展示紹介動画ができ、公開される。	発信計画の検討。ウェブサイト再編成（サイト統合）。博物館紹介動画（展示概要）作成。ウェブサイト再構成。博物館紹介動画作成。
2022	地域の人の発表した内容が公開される。	びわ博フェスでの発表内容紹介ページの作成。研究発信解説ページの作成。
2023	琵琶湖の概要情報の発信ページできる。博物館で新たに明らかになったことがわかりやすく発信される。	各ページのコンテンツ作成、掲載開始。琵琶湖紹介動画の計画。アクセス解析を実施。
2024	アクセス解析により、アクセスを増やすためのルート改善が進む。	アクセス解析およびページの改良。コンテンツ掲載継続。琵琶湖紹介動画作成。
2025	ウェブサイト上で「湖と人間」について学べるようになっている。琵琶湖博物館の疑似的な来館が可能になっている。	発信計画のみなおし。琵琶湖紹介動画アップ。アクセス解析。

#### 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

- ・5年間の事業：琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	博物館の状況を客観的に評価するための手法、目的や指標の検討を行う。	調査・評価方針の検討。
2022	博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法を選定する。	調査・評価方針の検討。
2023	来館状況などの変化や傾向を理解し、展示利用の来館者の傾向を把握する。	過去のアンケート調査結果の見直し調査。予算を伴わない調査・評価方法の検討。
2024	展示以外の事業についての部分的な評価が理解され、その改善方針が検討される。	展示以外の利用についての調査・評価方法の検討と一部実施。結果から改善について検討。

2025	博物館の状況を客観的に示せる。	評価の実施と改善の検討。開館 30 周年に向けて来館者動向の変化解析。
------	-----------------	-------------------------------------

### 5-3. 来館しやすい環境の整備

- ・5年間の事業：予約システムによる来館者の分散は2020・21年度実績より現実的でないと判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022年度をもって終了予定。ほかに想定される、多言語対応やユニバーサルデザインの推進は事業目標4にて実施する。公共交通機関の充実については、前中長期計画の取組結果より、期間を区切って結果を達成するのは極めて困難と判断し、継続的に模索するものの、重点事業化はしない。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021		予約システムの活用方法の検討。 キャッシュレス・チケットレスの導入。
2022	キャッシュレス・チケットレス導入による利便性の向上。	利用実績に基づくキャッシュレス・チケットレスの対象会社の拡張。
2023	駐車場から博物館への道について修正方針が定まる。	駐車場から博物館までの道について、来館しやすい道への修正の検討。博物館にとっての来館しやすい環境とはなにかの議論。
2024	来館しやすい環境のソフト面について一部が改善される。	来館しやすい環境としてソフト面で改善方法の議論と実施。
2025		

### ○事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

- ・実施目標：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。
- ・評価指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる。

#### 6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え

- ・5年間の事業：「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021	改修・危機管理の改善に向けた準備。	改修更新個所の洗い出しと分類。危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理。
2022	改修更新計画。危機管理マニュアル。	建物・施設改修更新計画完成。 危機管理管理マニュアル統合版完成。
2023	施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。	標本・資料の保管環境整備開始。 危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成。

2024	施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。	標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。マニュアルに基づく訓練・研修。
2025	計画に基づいた建物・施設の改修が、優先順位の高い標本・資料の保管環境から進んでいる。危機管理マニュアルが職員に浸透している。	標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。危機管理マニュアル改訂作業開始。

## 6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

・5年間の事業：支援の受入制度の整備と安定化をまず実現する。

年度	達成する状態（目標）	進めること
2021		リニューアル後の博物館支援の受入制度の試行。
2022	びわ博サポーター制度を利用しやすくするための検討が進む。	支援の受入制度の課題の抽出と最適化のための検討。
2023	制度の改善のために必要な行政手続きが進められる。	最適化のための手続き。 企業・団体・個人等の賛同を得られるような資金調達方法の調査・検討。
2024	改良された制度が始まる。	支援の受入制度の運用開始。
2025	企業・団体・個人等から支援を受ける仕組みが確立している。	支援の受入制度の運用。

## 2 評価の実施方法

### 2A. 評価実施の流れとスケジュール

各年度終了後、次年度4月に各事業目標について、主な担当部・課・係において評価を実施し、全体のまとめを行い、博物館の内部評価とします。令和4年度の内部評価については、館内のまとめを5月下旬から6月上旬に行いました。

内部評価の資料を博物館協議会の各委員へ送付し、博物館協議会にて内部評価の内容について説明、質疑を行います。その説明をうけて博物館協議会の各委員による外部評価を行います。令和4年度評価のための博物館協議会は令和5年8月3日に実施し、令和4年度の事業およびそれに対する内部評価の説明を行いました。それを受け、同年8月末日をめどに内部評価に対する外部評価を博物館協議会委員の方々に実施いただきました。

博物館協議会委員による外部評価を受けて、内部評価、各事業の進捗状況、博物館状況などと合わせて、次年度以降の各重点事業計画の見直しを実施します。今年度は、9月から12月に事業計画の見直しを行いました。

見直した事業計画の見直しについて、博物館協議会において見直した内容について説明を行い、ご意見を伺うとともに質疑を行います。今年度は、令和6年1月30日に実施しました。

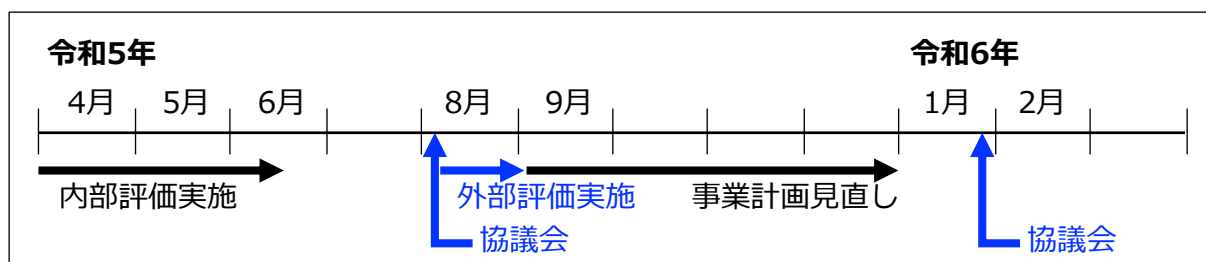


図2 令和5年度実施スケジュール

### 2B. 内部評価について

#### ○内部評価書

目指すべき目標に向けて計画している6つの事業目標について、それぞれの事業の中心的な役割を示す担当部・課・係が実施します。対象年度の重点事業の計画に対して、実施できたこと、実施できなかったことについて評価し、その内容について詳しい説明が示されている年報等の資料がある場合は、その該当部分を示します。重点事業の計画に対してできたこととできなかったこと、今後の計画も含めて、対象の事業目標について、それら目標に対してどの程度達成できたと考えているか、また、その進み具合や今後の問題点なども含めて評価を行います。

各事業目標について、中心的に取り組む担当部・課・係以外からの意見をうけ、評価を修正します。それぞれの事業目標の評価を受けた博物館全体の目標に対する総評を館長が行います。

#### ○概要図

昨年度に実施した博物館協議会において、琵琶湖博物館の内部評価がわかりやすく提示できる方法についての検討が求められました。その意見を受けて、Sustainable Development Goals (SDGs) や滋賀県が行っている Mother Lake Goals (MLGs) の評価の提

示方法を参考に、琵琶湖博物館内で議論した結果として、重点事業の各年度の実施状況を矢印で示し、6つの事業目標のそれぞれについての状況を4段階の棒グラフで示す方法を考えました。この図を使い、各事業目標およびその事業目標を構成する各重点事業についての評価を、それぞれの事業の中心的な役割を示す担当部・課・係が行った後に、他の部署からの意見を反映させて、概要図を作成します。

## 20. 外部評価について

評価の対象年度に対して、その次年度はじめに博物館が実施した内部評価に対する評価を、外部評価として博物館協議会委員に実施していただきます。外部評価は、琵琶湖博物館がたてた計画とそれに対する内部評価について、6つの事業目標ごとに、その評価が妥当な評価であるかを中心に検討し、琵琶湖博物館が目指す10年後の目標を最終到達点として、そこに向かうために必要な実施内容や計画になっているかを中心に、助言や意見を述べていただきます。

令和4年度事業についての外部評価は、令和5年8月3日に行われた博物館協議会において、昨年度と同様に、評価をした各委員の意見を無記名で列挙し、それらの意見を受けて、琵琶湖博物館協議会会長および副会長が総評を行うことが決定されました。このことから、令和4年度事業の外部評価は、全体の意見を受けた総評と、事業目標毎に評価書を提出された順番にそれら評価を無記名で並べています。評価者が対象とする事業目標について特筆すべきことがない場合は、意見を述べないこともあります。なお、評価の書きぶりを統一するために、ですます調への変更や漢字の変換ミスなどの明らかな間違いについては、事務局で修正いたしました。令和4年度（2022年度）の外部評価は、第14期滋賀県立琵琶湖博物館協議会の13名のうち12名の委員が行いました。

### 3 内部評価

#### ○内部評価 総評（館長による評価）

第三次中長期基本計画の2年目が終了した。2年目となる令和4年度の重点事業の計画を実行するにあたっては、1年目の活動に対する内部評価および外部評価などをふまえ、計画の見直しも行いながら実行した。全体としては、6つの事業目標を意識した活動が行われ、飛躍的ではないが、着実に前進しているといえる。以下、個々の事業目標について評価を述べる。

「事業目標1」を推進するためには、各学芸員が取り組む研究や地域の人々との交流に要する時間の確保、研究のための予算、設備の充実などが必要となる。こうした中、国の科学研究費が例年と同水準で一定数、確実に得られたことや、連携企業からの新たな研究予算が確保できたことは評価できる。今後は、現行の「研究専念日」を遵守するとともに、博物館外の方々との共同研究もさらに積極的に推進することが必要であると思われる。

「事業目標2」については、毎年着実に新たな資料登録が行われていることは評価できるものの、目標とする「だれでも・どこでも・いつでも」情報を使えるようになるためには、まだ入り口に立ったところといえる。なお、今年度DX事業に関する国の補助金に採択され、これに伴い措置された県の予算とあわせ、来年度より複数年にわたって「電子図鑑」と「生物等の分布情報」の充実を図ることができるようになったことから、今後の「事業目標2」の推進が期待される。

「事業目標3」については、例年開催している「びわ博フェス」を改善し、より多くの様々な人々が集い、「交流する場」の実践により、目標に向かって前進することができた。一方、学校連携事業においては、教員が博物館で経験した体験的な学習が、学校現場では生徒の体験につながっていないことから、今後の研修方法への改善が必要である。

「事業目標4」については、展示室での新たな音声ガイドの導入準備、展示物に対するより深い理解へつなげる試み、新型コロナウイルス感染症対策以前の展示室利用への対応方法の検討などを進め、実施目標のひとつである展示をより使いやすくする努力を行ったことは評価できる。

「事業目標5」では、インターネットページの充実を行うとともに、YouTube、Facebook、Twitterなどの各種SNSを利用した頻繁な発信を行っており、利用者へ最新の情報や博物館の魅力を伝える努力を続けていることは評価できる。しかしながら、実施目標に掲げている「双方向の広報」という点では未だ不十分な状況であり、更なる努力が必要である。

「事業目標6」は老朽化の進む施設等の改修が進んでいないばかりか、新たに修繕すべき箇所が次々に発生している。特に、2月に大型水槽の破損事故が起こったことから、その原因の推定や安全面に最大限配慮した上での復旧に注力することが必要となっている。中長期的な視野に立った抜本的な修繕や設備の更新計画を早急に立てるとともに、予算の確保に努めることにより、博物館の運営の安定化を図っていかなければならない。

(琵琶湖博物館長)



## ○事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

- ・ **実施目標**：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。
- ・ **評価指標**：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される。

・ **内部評価**

科学研究費基盤研究(B)は完了し、成果の公表段階に入っている。総合研究は期間を延長して継続中で、10件の共同研究とともに（年報 p2）、全体として順調に進んでいる。これら成果は、論文以外に J-STAGE などの既存プラットフォームや、わかりやすく解説するページの作成など、インターネットを活用した発信を進めることができた。しかしながら、備品更新計画は、予算の確保が課題となっており進んでいない。その一方で、企業連携による研究の整備を進め、具体的な研究に対する支援を受ける方法が多様化しつつある。資料の活用を中心とした DX 事業が採択されたことにより、それと連動した研究も模索している。

これらのことから、研究の推進がなされ、その成果発信も行ってきたことから、短期的には計画は順調であると考えているが、今後のさらなる研究推進を考えると解決すべき課題が多く残されている。

・ **各重点事業の実施状況**

## 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

科学研究費基盤研究(B)「東アジアの古代湖『琵琶湖』の固有種成立過程の解明のための総合的研究」が終了し、研究成果は論文として逐次公表している。また、琵琶湖博物館研究調査報告では、共同研究や外部資金プロジェクトの成果として琵琶湖博物館研究調査報告第35号「ナウマンゾウ研究百年」や第36号「日本列島を中心とした魚介類消費の研究」を公表した。総合研究「過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」は、研究計画を2025年度まで延長して実施中であり、新規の総合研究は内容も含め計画を検討している。突発的な事故への対応や新たな事業などとの関連によって、新しい研究を進めるための体制の確保は引き続き課題となっている。

## 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

公表した論文をわかりやすく解説するページを博物館インターネットページ内に設定した。次年度からの運用を計画している。科学技術振興機構の研究論文公開プラットフォーム J-STAGE を使った研究報告を新旧あわせて5件掲載した。4月から2月末までのアクセス数（論文ダウンロード数）が7,618件（月平均693件）であり（年報 p11）、昨年度の457件/月より増加していることから、研究成果の利用が広がってきていると考えられる。

## 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

大型備品として電子顕微鏡を更新した。一方で、令和5（2023）年度以降の大型備品の更新予算が県全体の収支改善の影響のため白紙となった。しかしながら、生物多様性に関する伊藤忠商事との連携研究において、恒温装置などのふ化施設用の備品や生態観察池の観測機器などの整備が進んだ。その他予算規模が比較的小さい備品の購入は進められたが、100万円以上の規模のものは、予算獲得が今後の課題である。研究環境改善のために研究室の照明更新を少しだが進めた。

## ○事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

- ・ **実施目標**：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。
- ・ **評価指標**：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている。

・ **内部評価**

資料の新規登録を着実にを行うとともに、公開データベースの一部改善を行った。当館の資料や情報を使いやすいように整備し公開することを目的とした「デジタルミュージアム推進事業」の申請に注力し、国や県に採択された。これは博物館資料の画像および3Dコンテンツを含む電子図鑑と、GISを活用した生物等の分布情報をインターネットで公開するものであり、これに要する画像・3Dデータの作成と公開デジタル情報整備など、来年度以降の数年間に事業目標を達成するための準備を進められた。ただし、長期的な資料整備の継続という観点からは、老朽化した施設・備品および膨大な数の資料の整理・保管に必要な人員など問題が山積みである。

・ **各重点事業の実施状況**

## 2-1. 標本・資料の管理体制の強化

標本管理のために必要な燻蒸庫の制御盤を交換した。収蔵庫空間では、故障していた加湿器を交換し、電灯のLED化を一部実行したが、全体改修には至っていない。写場の設備はほぼ更新できなかつた。また、収蔵庫空間設備の老朽化により、空調設備などの修繕と、今後の適正な管理のための大規模調査にかかる予算確保を検討する必要がある。

## 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

新たに5万点近い資料を登録した（年報p95：収蔵資料）。民俗資料（民具）データベースをリニューアルし、検索ツリーによる検索処理を可能にした。「大橋洋氏コレクション - 平成時代」の画像一覧冊子の作成なども進めている。博物館の資料を活用した論文・著書など計13件を公表した。なお、博物館資料の画像および3Dコンテンツを電子図鑑として公表する「デジタルミュージアム推進事業」を計画し、国および県に補助制度の申請を行った結果、採択された。この事業により、来年度以降、対象の資料整備が進められると期待している。

## 2-3. ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積を進めた。今年度申請し採択された「デジタルミュージアム推進事業」において、資料をインターネット上で公開するために必要な、3Dコンテンツを含む画像資料を蓄積・整備するための備品購入を含む予算を確保した。本事業は博物館が持つ資料情報を公開していくためのもので、電子図鑑の増設、館内Wi-Fiの強化、地理情報データの整備・公開などを行っていくことを予定している。

○事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。</li> <li>・評価指標：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる。</li> </ul>
<p>・内部評価</p> <p>今後の方針や制度設計にかかる具体的な検討が難航しており、計画としては遅れている。しかし、参加者へのアンケート調査結果による交流事業の分析や、「びわ博フェス」における新たな参加者を求めるなどによって新たな「出会いの場」の創出といった事業を行ったことから、「学びあいの場」となる取り組みが進められた。</p>
<p>・各重点事業の実施状況</p> <p><b>3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実</b></p> <p>幅広いニーズに応えるため、①イベント系事業（観察会・体験学習等）と、②連携系事業（地域連携、学校連携、はしかけ、FR等）の充実を行った（年報 p18-59）。また、それらの分析を行ったところ、観察体験型のイベントや専門的な知識などについてのニーズが高いことがわかった。</p> <p><b>3-2. 出会いの場の創出</b></p> <p>個人や市民グループ、企業、研究・行政機関等とのさらなる関わり方を模索するため、びわ博フェスにおいて、地域の市民グループや企業等の団体などのこれまでとは異なる団体の参加を求め、協働企画のシンポジウムや交流会を開催し、出会いの場を創出した（年報 p59-60）。また、団体登録制度に関して「かごしま環境未来館」や「大阪市立自然史博物館」などの事例を収集し、分析を行った。その結果、当館で新たな団体登録制度を設定するためには、当館独自の魅力的なサービス内容が不十分であり、さらなる検討が必要であった。</p> <p><b>3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援</b></p> <p>来館した学校団体を対象にした「来館者アンケート」、当館実施の研修（フローティングスクール研修、初任者研修）を受講した教員（年報 p54）を対象にした「研修後のアンケート」を行った。アンケートに回答した約半分の学校では、教員が生徒に対して体験的な学習を実施していないことがわかった。多くの教員が体験的な学習を自校において実施できるよう、追跡調査を今後も実施しながら、研修内容の改善を計画的に進める。</p>

## ○事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。

・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える。

## ・内部評価

各常設展示室における小規模な更新、企画展示およびギャラリー展示を実施した。職員や地域の人びとによる活動を来館者に伝えるオープンラボでの活動を推進し、ICTを活用した展示室でのガイドとして「ポケット学芸員」の利用を開始した。これらにより、利用者へ地域情報や最新情報の提供を促進できた。また、新型コロナウイルス感染症対策で中止していた展示の復活準備を進め、その経験も生かして展示更新のための情報収集と準備を行った。2月に水族展示室の大型水槽が破損したことを受け、改めて展示室での安全点検および安全確保について新たな指針の検討を行うと同時に、水族展示室を中心とした今後の展示更新計画の見直しが必要となった。結果として、今年度の展示更新計画は進まなかったものの、展示手法も含めた展示室の安全点検・確保についての検討など、今後の博物館運営の根幹に関わる重要な視点・情報を得ることができた。

今年度は全体的には計画が大きくは進まなかったが、今後の計画に前述の経験をどのように反映させていくかが大きな課題といえる。

## ・各重点事業の実施状況

## 4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

展示室で使用する音声ガイドについて、2016年の第1期リニューアルから稼動していた「びわ博ナビ」が2023年3月で運用終了することから、同様の内容で文字配信していた「ポケット学芸員」を音声ガイドとして運用する準備を進めた。今年度は、日本語による読み上げ機能を用いた音声コンテンツの設定を試行した。本システムは、多言語対応が課題であるが、機材数による制限がないのが利点である。今後は、ガイドの設置箇所増設の検討を行う。

## 4-2. 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

インターネットページ上にある電子図鑑や「おうちミュージアム」のコンテンツ、参照できる論文等へのアクセスについて一部の展示室で表示した。これらの利用状況については、調査できておらず、計画が遅れている。今後、コンテンツの追加を視野にいれた利用状況調査を実施し、展示室においてフィールドが楽しめる内容となるよう検討を行う。

## 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

すべての常設展示室で、展示内容のアップデートを行い、また新型コロナウイルス感染症対策の緩和等に伴って小さな展示更新を複数行った（年報 p106-117）。C展示室と水族展示室の更新計画の見直しを行い、C展示室において、照明・映像などの機器類の入れ替えを実施したものの、内容の検討はできていない。水族展示室は2月にビワコオオナマズの水槽破損が起こったこと（年報 p146-148）で、展示更新方針などもそれに合わせて検討が必要になった。展示の内容以外の機器類等備品や設備の修繕などの維持管理上の課題も多いことから、今後の展示の維持管理方法の見直しも含めた展示更新計画を検討・実施していくことが課題となっている。

## ○事業目標5 より多くの人利用する博物館へ

・**実施目標**：ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。

・**評価指標**：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える。

・**内部評価**

博物館インターネットページは、博物館の展示やイベント、資料データベースの紹介ページに追加して、交流事業で行っている「地域の人」の活動紹介や、最新の研究成果をわかりやすく伝えるページを作成することで、博物館活動にかかる様々な内容を伝えるプラットフォームとして充実しつつある。さらに、YouTubeを活用した動画配信に加え、FacebookやTwitterなどのSNSを活用して、適切にわかりやすく親しみやすい方法での情報発信を行っている。どのインターネットページやSNSも、閲覧利用促進のためには継続的な運用が重要であり、内容の充実が今後の課題である。来館者の利用しやすさについては、わかりやすさと使いやすさの観点から見直しが必要である。

本事業は、実施目標には近づいているが、「双方向」という点の充実ができておらず、評価方針も定まっていないことから、着実に進んでいるとは考えていない。また、来館しやすい環境整備についても、「事業目標6」と合わせて課題の明確化と改善計画の検討が必要である。

・**各重点事業の実施状況**

## 5-1. ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

びわ博フェスの実施内容と参加団体の発表内容（公表承認を受けたもの）を紹介するインターネットページを作成した。これら発表内容は、次年度以降も閲覧できるように、発表内容を蓄積させる方針とした。また、最新の研究成果報告をわかりやすく紹介するインターネットページの形式・構成を検討し、来年度から運用する予定である。こうした取り組みを通じて、地域の人びとが行う交流事業と、当館において実施している最新研究の発進について、ICTを活用した紹介を強化するためのプラットフォームづくりを実現した。

## 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

館内で実施している年2回の来館者アンケートの集計結果によると、来館者の満足度は高く、不満に思う項目も、主に入館予約が必要なことや水族展示室閉室など、消またはいずれ解消される時期が限定されたものであった。その一方、駐車場や昼食場所など施設面での不満（年報p137-139）については、計画的な検討が必要である。博物館事業を客観的に評価する方法については、展示や交流事業等の利用者に対するアンケート調査があるが、それ以外の面については、客観的な評価方法が検討できていないことから早急な対応が必要である。

## 5-3. 来館しやすい環境の整備

昨年度末に導入したキャッシュレス・チケットレスシステムについては、博物館インターネットページのトップページからのリンクバナーを表示するなど、対象ページへのアクセスをわかりやすくした。システムに対応する種類の拡大については、まだ実績も少ないことから、これまでの利用状況について解析ができていない。

## ○事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

- ・ **実施目標**：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。
- ・ **評価指標**：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる。

・ **内部評価**

老朽化した施設については、修繕や更新が必要な箇所が年々増加しており、その都度対応に追われているが、展示空間にある一部のトイレは長期利用停止状態になっているなど深刻な問題点も多い。これらに対応していくためには、修繕・更新のための全体把握とそのために必要となる財源などの情報を集約し、改修計画を明確にしていく必要があるが、相次ぐ新たな故障等の発生により、現状ではあまり進んでいない。活動基盤の安定については、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により企業訪問を再開し、ご意見をいただきながら制度についての検討を行っている一方で、水槽破損事故の発生による財源確保など、新たな課題も生じている。

施設としての博物館は、老朽化や破損などへの対応が不十分であり、安心感のある場所という点では、目標には遠く及んでいない。一方で水槽破損事故後に、企業を含む多くの方々からの激励や支援の申し出などもあり、博物館への関心の高さを確認することができた。

・ **各重点事業の実施状況****6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え**

来館者の利用空間や収蔵庫等のバックヤードなどの故障した空調設備の修繕を行ったが、他にも修繕できていないものや更新時期を過ぎた設備が多く、対応が追いついていない。これら故障や更新が必要な箇所を調査し、長寿命化を計画的に進める必要がある。

また、2月の水槽破損事故では、当日の応急対応、水族展示の閉鎖措置、観覧料の減免措置、原因推定のための委員会の設置・検討、その後の様々な対応など、展示室の安全安心の確保に向けて取り組んだ。この対応は現在も継続中であるが、このような破損事故は人命にも関わる可能性があり、今後の施設管理や危機管理上の新たな問題点として検討が必要である。他の危機管理に関し、防災訓練の実施、鳥インフルエンザの流行期の対応など、それぞれの対応についても再確認を行い、職員のレベル向上に努めた。危機管理マニュアルは、災害につながる可能性がある事案があった場合に対応マニュアルを見直すなど、現在の運用に合わせた更新の必要性を検討した。

**6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり**

近年は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、企業・団体へのアプローチが非常に難しい状態が続いていたところではあるが、引き続き支援をいただいている（年報 p144-145）。また、水槽破損事故では、「水槽サポーター」である関係企業・団体への連絡等を行ったが、引き続き次年度にも丁寧な対応が必要である。

通常の支援制度以外にも、破損した水槽等の修繕を含めた水族展示室再開にむけた財源確保の検討など、新たな課題として認識している。



図3 令和4(2022)年度内部評価概要図

## 4 外部評価

## ○外部評価 総評（琵琶湖博物館協議会会長・副会長による評価）

第三次中長期基本計画の2年目終了をうけて、昨年度に続き第2回目の外部評価を行った。評価対象となる令和4年度の事業について、各重点事業の実施状況と内部評価を踏まえ、琵琶湖博物館協議会委員が多様な視点から評価した。今回は中長期評価の進捗状況や達成度を示す概要図が示されるなど、評価しやすい枠組みが設けられていたほか、昨年度の評価を踏まえた計画の見直しも進んでおり、第1回の外部評価の効果も実感しながら評価を進めることができた。以下、個々の事業目標ごとに評価内容を述べる。

「事業目標1」については、研究の推進と成果発信が順調に進んでいることから、達成度は50%程度との内部評価よりも実際はもっと高く75%程度と評価できる。一方で、研究備品の更新など研究環境の向上を図るうえでの予算確保が課題といえる。予算の獲得にあたっては、優先順位をつけて折衝を続け、質の高い研究を行うために必要な研究環境を構築していく必要がある。企業との連携研究やDX事業を活かした研究の進展などが今後さらに期待される。

「事業目標2」については、ICTの活用を進め、DX事業を推進していく中で、情報格差が極力起きないように、リニューアル時に重点的な検討を行ったユニバーサルデザイン評価会議の蓄積を生かし、本当の意味での「だれでも・どこでも・いつでも」使える整備を目指してほしい。同時に、その基盤となる標本整理の推進や、収蔵庫空間の整備など、外部から見えにくいところにも十分に配慮し、必要性の高い設備から計画的な改修を進められたい。

「事業目標3」については、長年の交流事業の積み重ねをうけて充実した内容の「びわ博フェス」が開催できたこと、学びあいの場としてフェスの重要性が共有されたことが特筆される。しかし、まだ県民に広く周知されているとは言い難く、さまざまな媒体で発信し、交流事業の担い手の多様化を促進していく必要がある。琵琶湖学習についてはかねてより課題が残り、学校現場のニーズ把握とその反映、オンライン学習の活用や、子ども向けの「びわこのちからチャンネル」の開発など、琵琶湖博物館をさらに利用してもらうべく工夫する余地が大きい。学芸員にあまり負担のかからない形で「学びあい」という双方向の活動をさらに推進してほしい。

「事業目標4」の「もっと使いやすい博物館へ」を体感できる「ポケット学芸員」の利用開始は今後の普及・充実化への期待も込めて大きく評価できる。琵琶湖博物館のガイドなど、アプリを補完できる既存の媒体も生かし、「観る+使う」展示への成長を図る中で博物館の特色を打ち出してほしい。「大人のディスカバリー」も、オープンラボを含め博物館の人気スポットで、来館者の満足感や「観る+使う」の実感を得やすい空間となっている。このほか、企画展示が過去最高の来場者数を記録した点も高く評価でき、水槽破損をうけて展示更新の見直しが必要となったことを勘案しても、達成度は内部評価よりも高く評価する意見が複数出ていた。

「事業目標5」について、インターネットページや動画など情報発信は工夫されており評価できる。さらに親しみやすく、コメントしやすい雰囲気になれば、残る課題となる「双方向的な広報」につながっていくだろう。また双方向性を模索するなかで、社会



的評価の情報収集も重要であり、とくに資金調達の観点からは、博物館に関わることで企業がどんな利点を得られるかについても考慮しておく必要がある。以前から指摘のある「駐車場から博物館への道がわかりにくい」点については、2023年度に重点的に検討し方針を定める計画となっており、十分な議論を進められたい。

「事業目標6」は水槽破損事故の影響もあって、内部評価では6つの目標の中で唯一達成度25%程度、「大きな課題がある」項目で、琵琶湖博物館の今後を左右する重要課題といえる。新しい取り組みへの投資と老朽化施設の改修費用の確保との間でバランスをとるのは難しいが、再び大きな事故が起きないように、まずは安全第一・健康第一で、来館者と博物館スタッフが安心して利用できる・働ける環境を着実に整えてほしい。予算の確保にあたっては、県に強く要望をしていくだけでなく「水槽サポーター」である関係企業・団体との連携を深めるとともに、事故を契機として潜在的なサポーターも掘り起こすような積極的な取り組みが必要となる。

博物館の活動は、全体的によく頑張っていることがわかる。その一方で、目標に向かって実施している事業について、その次の展開をどうしようとしているのかが見えない。これまでの活動や取り組みを振り返った上で、たとえば、地域の人びととの関わりの中で、その事業をどうやって広げたり展開していくのかが見えるようにしてほしい。それは、目標に対する展望と事業の計画を関係づけて、次の5年間の計画として検討されることなのかと思われるので、その点について、琵琶湖博物館としての考えが見えるような形で示していくことを期待する。

(琵琶湖博物館協議会 会長・副会長)

○事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。</li> <li>・評価指標：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される</li> </ul>
<p>重点事業 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進</p> <p>重点事業 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える</p> <p>重点事業 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化</p>
<p>・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）</p> <p>世界湖沼会議の出席の際にもっと『琵琶湖博物館』の存在をアピールしてはいかがでしょうか。</p> <p>~~~~~</p> <p>1-1：研究が順調に進んでおり。研究費についても一定数確保できたとのことで、内部評価概要図に異議ありません。</p> <p>1-2：J-STAGEのアクセス数が月平均150%と飛躍的に増加しており順調に進んでいると評価できます。</p> <p>1-3：予算の問題で難航しているものの、研究室の照明更新が進んだことは、職場環境改善において評価できます。</p> <p>~~~~~</p> <p>1-1：国の科学研究費が、例年同等に得られたこともあり、研究が進んでいることが、年報に記載されている研究内容からもわかり、大いに評価致します。</p> <p>1-2：琵琶湖博物館のホームページがわかりやすく整理され、その一つに、科学技術振興機構の研究論文公開プラットフォームJ-STAGEに、私も容易にたどり着くことができ、琵琶湖博物館研究調査報告を読むことができました。だれでも、世界中から見るができることにより、研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝えるという目標に達し、2022年度は、アクセス数も増え、研究成果として、より多くの人に利用されることがわかりました。今後も大いに期待できるところであり、成果として大いに評価致します。</p> <p>1-3：電子顕微鏡が更新できたことは、今後の研究を進めていくにあたって、大きな成果が期待できそうです。また、企業（伊藤忠商事）との連携研究により、備品、機器の整備が進んだことも、大きな成果として評価致します。今後も連携研究の重要性を感じます。</p> <p>~~~~~</p> <p>この事業目標1は、魅力の掘り下げと、世界への発信です。重点事業1-1で、論文や研究の発表がされていることが記され、重点事業1-2でも、アクセス件数の増加について報告されています。重点目標1-3の評価は低いですが、1-1と1-2のほうが事業目標1としては軸かと感じるので、1-2の評価を少し上げてもいいかと考えます。</p> <p>~~~~~</p> <p>内部評価を支持します。研究があつての博物館事業だと思います。お金・時間・環境が整い充実するよう期待しております。</p>

~~~~~

特にありません。引き続き応援しています。

~~~~~

研究者による最先端の研究が進捗し、適切に発信もなされていることは十分に評価できます。しかし、実施目標・評価指標ともに記載のある「地域の人々」がどのように関わっているのかは内部評価や実施状況からは読み取れず、目標・指標と内部評価との乖離を感じました。

年報から研究やその成果発信に地域の人々が関わったところを読み取ると、(事業目標3とも重なりますが)びわ博フェスでの活発な活動や、企画展示「チョウ展」が地域で昆虫を研究している人たちと博物館との共同研究の成果だったことがわかりました。目標・指標において「地域の人々」とともに、を標榜している以上は、そのあたりのことにも言及して評価しておく必要があるのではないのでしょうか。

~~~~~

「1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える」において、アクセス数が月平均で1.5倍増加しているということから、着実に研究成果の利用が広がっていると言えるのではないのでしょうか。今後、論文をわかりやすく解説するページを運用していくことで、さらに研究成果の利用が広がっていくことを期待します。

「1-3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化」において、予算の獲得が課題との記述がありましたが、このことについては他の項目でも挙がっています。それゆえに、項目ごとというよりは、館全体として予算の優先順位(予算の高いもの)を掲げ、その獲得に向けて県との交渉を図っていく方がいいのではないのでしょうか。国立科学博物館がクラウドファンディングにより、一日で目標としていた金額を達成することができたとの報道がありました。同じようにはいかないかもしれませんが、このような手法もあるのではないかと思いました。

○事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。</li> <li>・評価指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>重点事業 2-1. 標本・資料の管理体制の強化</p> <p>重点事業 2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進</p> <p>重点事業 2-3. ICTを利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）</p> <p>「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備について。今一度、視覚、聴覚、知的、肢体に障害がある方々にとってもアクセスができるものなのかと検証していただきたい。特に、リニューアルのUD評価会議を積み重ね、来館時の課題はかなり減らせたのではないかと自負しておりますが、地域的に来館が困難な特別支援学校もありますので、ICTの活用を進める中で情報格差が極力起きないように、音声での説明は画像はあるものの、『これを見てください』と終わるのではなく、『これを見てください。羽根の大きさは広げると左右は10cmもあるんですよ』みたいに映像を言語化する配慮をわざわざではなく、当たり前前の基準とすれば盲学校内でも活用ができますし、また聾話学校の児童・生徒が校内で映像を見ながら学習できる教材として活用を進めるなら、総ルビやわかりやすい日本語、わかりやすい表現の字幕を付ければ、それは自ずと外国籍の方々や軽度の知的障害がある方々にもわかりやすい情報になると思います。その上で手話通訳の挿入も検討いただければ、本当の意味での「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備になると思います。</p> <p>~~~~~</p> <p>2-1：一部設備の交換・改修が進んだことは評価できます。大事故になる前に、継続して優先順位の高い設備から修繕を進めて欲しい。</p> <p>2-2：デジタルミュージアム推進事業を申請し採択されたことは、大きく評価できます。来年度以降に期待します。</p> <p>2-3：予算も確保できたとのことで、新しい取り組みに来年度以降に期待します。</p> <p>~~~~~</p> <p>2-2、2-3：博物館資料の画像および3Dコンテンツを電子図鑑として公表する「デジタルミュージアム推進事業」が、国や県に補助制度の申請が採択されたことは、今後資料の整理がすすんでいくことが期待でき、大いに評価致します。</p> <p>~~~~~</p> <p>事業目標としては着々と進行していると感じます。ただ、2022年度に収蔵庫空間の電気、空調などの一斉点検が掲げられていましたが、2-1では未達成のようであり、課題なのだと感じました。</p> <p>「デジタルミュージアム推進事業」の採択により、その資金が、今後の事業目標の推進に役立つと期待します。</p> |

内部評価には、人員の問題が挙げられていましたが、事業目標の進捗とは切り離して考えて、評価としては記載にある「達成するための準備が進められた」という点での評価でいいと感じます。

~~~~~

内部評価を支持します。その中でも特に ICT の活用を期待しております。

~~~~~

データベースを一部拝見しましたが大変使いやすく、検索のしやすさを感じました。資料や情報を未来に永く残すためにもデジタルコンテンツの整備を進めつつ、施設や備品等を守るための活動にも時間やお金が割けられるようになることを願います。

~~~~~

「デジタルミュージアム推進事業」やウェブ図鑑の構築に向けての準備や大型備品の導入などが事業計画のもと着実に進んでいる状況が内部評価・実施状況から読み取れました。しかし同時に、内部評価最後の「ただし」以下にあった問題点が非常に気になりました。社会的要請の高いところとはいえ発信を急ぐあまりに、発信の基盤となる足もとが危うくなるようなことになっては本末転倒です。「長期的な資料整備の継続」という観点も発信の重要性とともに本事業目標の両輪に据えて、「老朽化した施設・備品および膨大な数の資料の整理・保管に必要な人員」への措置もしっかりと視野に入れておくべきです。水槽破損事故がその警鐘であるように思えてなりません。

~~~~~

「デジタルミュージアム推進事業」の申請に注力し、その結果、国や県に採択されたことにより、来年度以降の事業目標の達成のめどが立ったことは、評価したい。このことですべての整備ができるとは思わないが、重点項目を定めるなどして、計画的に取組を進めてほしい。

○事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。</li> <li>・評価指標：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| <p>重点事業 3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実</p> <p>重点事業 3-2. 出会いの場の創出</p> <p>重点事業 3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）</p> <p>交流事業は長年の積み重ねや内容の充実で素晴らしいと思います。ただ、活動の利用者がお互いに交流や意見交換などを充実するとともにさまざまな媒体で発信してはいかがでしょうか。ご存じの県民が少ないのは残念です。</p> <p>~~~~~</p> <p>3-1：イベント実施のPDCAにより、利用者のニーズ分析までできており評価できる。入手情報を活かしたNEXTステップに期待する。</p> <p>3-2：工夫して新しい出会いの場の創出を図れており、評価できる。</p> <p>3-3：研修後のアンケート実施により実態を掴めたことが第1歩。「深く学ぶ」につながる仕掛けづくりに期待する。</p> <p>~~~~~</p> <p>3-1：幅広いニーズに応えるべく多岐に渡る博物館の対応は、年報を読ませて頂き、学芸員が取り組む研究以外の時間が予想以上に多いことがわかり、「研究専念日」を遵守することの重要性を感じました。</p> <p>3-2：2000年に発足した「はしかけ制度」も、今では、25のグループが活動し、グループによっては、定例調査や追跡調査をするまでに成長し、まさに「みんなで学びあう博物館」としての役割を大きく果たす存在となっていると思います。また、一般の利用者への観察会や催しにも指導者的な立場として活動され、博物館の理念である「フィールドへのいざない」に、大きな役割を果たす存在になっていると思います。今後のはしかけ活動に期待しています。</p> <p>昨年「びわ博フェス」に参加して、はしかけのみなさんそれぞれが、参加された一般の方々に生き生きと指導されるとともに、共に楽しんでおられた様子がとても印象に残り、「学びあいの場」としても、びわ博フェスは重要な位置づけになっていると思います。また、企業や市民グループの参加もあり、コロナ以来、久々のにぎわいとなり、今後、琵琶湖博物館が発展していく上でも、「びわ博フェス」の重要性を感じました。今後、魅力のある「びわ博フェス」を持続していく上でも、はしかけや市民グループ、企業など参加者同士の交流も「学びあいの場」となり、活動していく上での大きなヒントが得られる場でもあり、気楽に交流を楽しむ場の設定が大切であると思います。</p> <p>3-3：教員研修につきましては、かねてより課題が残り、アンケート結果からも、日ごろ多忙な教員に求めるのも難しい状況ではと思いますが、連携しやすい時をとらえ、例えば、フローティングスクールでは、5年生の子どもたちが、博物館に来館できにくい状況であれば、琵琶湖博物館と船内とのオンライン（2022年度は魚の解剖などのオ</p> |

ンライン実施)を広げ、各展示室とを結ぶオンラインがあれば、琵琶湖学習も楽しく学べ、リニューアルされたすばらしい展示も利用でき、双方向の交流からも、琵琶湖学習がより深まるものと期待しています。ただ、学芸員の先生方にとっては、負担が大きいかと思いますので、負担のないプログラムの設定が必要かと思います。

また、子ども向けの「びわこのちからチャンネル」の開発などもいいのではないのでしょうか？琵琶湖博物館を大いに利用してもらおう工夫は、今後、まだまだあると思います。(事業目標4にも関連してくるかと思います)

~~~~~

事業目標にある「みんなで学びあう」について、博物館の情報発信だけでも大変な量の情報なのに、つながりまで提供したり、「学びあい」という双方向の活動をしたりするのは大変な労力と感じます。

大変な目標ですが、負担のなきよう取り組んでほしいです。内部評価でいいと思われれます。他の博物館の取り組みと比べていたことがあれば、またお話があるといいな、と思います。

~~~~~

内部評価を支持します。この分野の今後の伸びを期待しつつ、それにかかるパワーも相当なものと思察します。どうか無理の無いよう進めてください。

~~~~~

アンケート調査に関してコメント致します。

来館回数を調査いただいているので、新規のお客様とリピーターを分けて他の調査項目を深掘れば、どういう人が複数回利用してくれているのかや、レポートには影響しない不満内容(改善しなくても良いわけではありませんが…)などが把握できると思います。

「情報源」について、選択式であれば SNS や YouTube などのこちらからの発信も選択肢に入るとそれぞれの効果も把握できるのではないかと思います。

ネットでの回答もできるようになると、ちょっと休憩していて思い出した時や、帰りの車の中などでも回答ができて協力しやすいと思います。

~~~~~

ポストコロナ期における「今後の方針や制度設計」に時間がかかることは理解できます。「みんなで学びあう博物館」は琵琶湖博物館の特色を最も打ち出せる目標といえるだけに、ニーズの把握に基づいた制度設計をじっくりと進め、交流事業や出会いの場のさらなる充実化を図ってほしいと強く願っています。とくに協議会でも多くの意見のあがった「琵琶湖学習の支援」についてはソフト面・ハード面双方において博物館ができることを今後の検討によってかなり開拓していけるのではないのでしょうか。

事業目標や内部評価の記載の分量がほかの項目と比べてやや少ない点からも「難航」している様子を読み取れました。テコ入れを図るうえで、実施体制の見直し・強化なども必要なかもしれません。この機会にぜひ検討してもらいたい。

~~~~~

「3-1 幅広いニーズに応える交流事業の充実」において、小学校の現状から考えると、現在の琵琶湖博物館の利用は3年生が社会科で昔の人々の生活や暮らしを学習するので、3年生に偏っているのではないかと思います。小学校をはじめ学校については、

学習指導要領の内容に基づいて学習（カリキュラム）を組み立てているので、その視点に立った観察や体験コーナー等があると利用の幅が広がるのではないのでしょうか。

「3-3 『深く学ぶ力』に基づく琵琶湖学習の支援」において、教員を対象にした「研修後のアンケート」結果から、「教員が生徒に対して体験的な学習を実施していないことがわかった」と記載されています。もちろん、教員自身の課題もあると思うが、「追跡調査を今後も実施しながら、研修内容の改善を計画的に進める。」と記載されているので、その辺りの取組をお願いしたい。



○事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます</li> <li>・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える</li> </ul>
<p>重点事業 4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長                  重点事業 4-2. 「観る」展示から「観る＋使う」展示への成長                  重点事業 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長</p>
<p>・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）</p> <p>展示物や展示の工夫ももちろんのこと、台の高さや角度、車いすの方でも近くまで迫れるか、または安全かなど、UD 評価会議はリニューアルに向けてだけではなく、（そこだけで終わるのはバリアがあるから取り除くというバリアフリーの考え方なので）UD の性質上、常に検討し、来館者のニーズの把握や学芸員さんたちの工夫にかかっているといます。ぜひ、展示に常に付帯して連動して常に障害の有無、年齢や体格などに関わらず来館者が誰もが楽しむにはどうすればいいのかを考え続けていただきたい。</p> <p>~~~~~</p> <p>各種展示の工夫を凝らして実施されており、評価できます。</p> <p>~~~~~</p> <p>4-1:「ポケット学芸員」は、博物館のサービス向上に大きく貢献し、2022 年度の利用状況等はわかっていませんが、来館者にとっては、手軽に利用ができ、知的好奇心も満足でき、観る楽しさが倍増するという点では、大いに評価できます。そして、今後の設置個所の増設に期待しています。（私は、まだ利用していないのですが、次回、利用させて頂いて、改めて、展示を観ることを楽しませて頂きたいと思っています）</p> <p>4-2: オープンラボでの利用・活動は、実体顕微鏡などを利用している“はしかけ”のみならず、学芸員と来館者とのやり取りなど、来館者にとっても、博物館をより身近に親しみを感じ、知的好奇心を呼び起こす場となっていて、今年度もラボでの利用率が高く、大いに評価致します。「大人のディスカバリー」は、オープンラボを含め「観る＋使う」という点では博物館の人気スポットとなり、来館者の満足感が大きい場へと発展していくものと期待しています。</p> <p>4-3: 水族展示室の破損事故は、私たち県民にとって、とても大きな衝撃を受けました。今では、原因の究明が進み、それと同時にあちこちの水槽にも亀裂が生じていることも判明し、今後、安心して楽しめる水族展示のリニューアルを祈念しています。今、出来ることとして、「みんなで作ろう！水族展示」ということで、「びわ湖の魚」の絵を募集して、破損水槽周辺にたくさんの絵を展示したり、水槽復旧に向けた応援メッセージを呼びかけて、たくさんの来館者が書いてくださったメッセージを貼って、来館者とともに作り上げていこうという機運が高まってきて、とてもうれしく思いました。</p> <p>協議会の日に水族展示室を見て回って、感じたことの一つに、からっぽの「トンネル水槽」に、来館者が見て、楽しめる工夫がなされればと思いました。水族やディスカバリースタッフ、はしかけなど、垣根を越えての知恵と工夫を出し合い、子どもたちの人気スポットであるトンネル水槽を楽しいスポットにして頂けたらと思いました。（今、書いている時点で、すでに工夫されているかもしれませんね）</p> <p>~~~~~</p>

事業目標の「もっと使いやすい博物館へ」の、使いやすい、という意味は多様でありませんが、今回の評価では「ポケット学芸員」の利用が開始されたことへの割合が大きいと感じます。そうすると、重点事業の4-1の→の評価は上向きでもいいのではないかと感じます。

~~~~~

内部評価を支持します。

~~~~~

利用者視点の意見ですが、琵琶湖博物館のガイドには面白い内容が沢山含まれているため、展示物を見るだけでなくガイドを読んだり聴いたりしてもらえるための工夫も必要だと感じています。ポケット学芸員もとても良いサービスだと思いますが、アプリをインストールすることは一つ障壁となる部分だと思うので、それを上回る充実さや楽しさが館内で知れると、ガイドを見てみようという気持ちになりやすいと思います。

~~~~~

どの事業目標にも関わってきそうな内容なので、どこに記載すればよいかよくわかりませんが、内部評価に「企画展示を実施した」とあるのでこの目標4のところに記しておきます。

年報p121をみると企画展示「チョウ展」はコロナ禍による入館者数制限を実施していた時期とも重なるなかで、過去の企画展示のなかで最高の来場者数を記録し、リピーターも非常に多かったという。このことは内部評価のなかでも重視して大きく評価し、今後の展示で継承すべき点などを共有しておく必要があったのではないのでしょうか。チョウという題材の魅力の大きさはあったにしても、地域の研究者との共同研究成果の発信、コレクションの整理後の成果公開、小学生への宣伝強化、巨大模型や押しチョウの総選挙など、それぞれの背景にどんな意図や工夫があって最多の来場者数につながったか、評価するとともに今後の参考となるような分析も加えておく必要がありそうです。

~~~~~

「4-1 『観る』展示から『観る+使う』展示への成長」において、今後、展示室においてフィールドが楽しめる内容となるよう検討を行うと記載されている。「観る+使う」展示というコンセプトは大切にしたいことだと思うので、検討の上、できるだけ早期に実現されることを期待する。

○事業5の目標 より多くの人利用する博物館へ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立ってます</li> <li>・評価指標：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える</li> </ul>
<p>重点事業 5-1. ICTを利用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介</p> <p>重点事業 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映</p> <p>重点事業 5-3. 来館しやすい環境の整備</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価（評価者毎に区切り線をいれています）</li> </ul> <p>YouTube活用の動画配信など、学芸員の専門的かつ分かりやすい伝え方の工夫がされており、評価できる。</p> <p>~~~~~</p> <p>5-1：琵琶湖博物館のインターネットページは、とても分かりやすく改善されていて、「びわこのちからチャンネル」などの動画や研究成果報告も見やすくなり、館長さんの評価にもありますように、利用者への最新の情報や博物館の魅力が感じられ、大いに評価でき、今後、博物館が目指す「双方向の広報」を楽しみにしています。琵琶湖地域の新たな価値を発信する情報誌「びわはく」（6）の2022年度版は、滋賀県の昆虫たち特集で、学芸員や滋賀むしの会、トンボ調査グループ、フィールドレポーターの調査など、とても興味深く、参考になりました。最後のページの「来館者から」のページは、博物館への質問や利用方法などがよくわかり、親しみを感じるページになっています。（2023年度版にも設けられていて、毎号あってもいいのではと思いました。）</p> <p>5-2：来館者アンケートの集計結果から。その一つに会議でも提案されていましたが、駐車場から博物館の玄関までのアプローチがわかりにくいという点の解消方法として、大きな見やすい案内板の設置や足元の工夫をという意見が出ていましたが、例えば、矢印と共に、親しみを感じる絵、ゾウや魚やバイカルあざらしなどの看板を樹木のところに設置して誘導し、足元にもペインティングして、歩いて行くのが楽しくなる工夫があってもいいのではと思いました。</p> <p>また、以前には、たくさんの身障者用の駐車スペースがありましたが、現在は、博物館の玄関前にも、身障者用の駐車スペースが設けられていますので、大きな駐車場に、ベビーカーを使用しての来館者に一部、優先ゾーン、駐車スペースを設ける等のサービスができればと思いました。そうすることで、若い層の来館が見こまれるのではと思いますが、これは、他所では見たことがなく、可能かどうか分かりませんが・・・小さい子どもたちがベビーカーや歩いてくることを想定して、思いついたことの一つです。</p> <p>~~~~~</p> <p>事業目標5では多くの人利用が目標ですが、社会的評価の情報収集も掲げられています。</p> <p>5-2：来場者のアンケート調査があるのですが、社会的という観点から、企業からみたびわこ博物館の評価も気になります。今後の資金調達を想定すると、企業からみても何か利点があるといいのではないかと感じます。</p> <p>5-3「2022年度の達成する目標」：達成できているように感じます。利用状況の解析ができていないようではありますが、→評価は上向き矢印でいいと思います。</p>

~~~~~

内部評価を支持します。事業目標2と合わせて期待しております。

~~~~~

Twitter をフォローしていますが、昨年よりも更新頻度が増えているように感じています。内容についても情報の発信がしっかりとされていて、琵琶湖博物館が何をしているのかが良くわかります。一方で若者視点では、もっと親しみやすさを出すとフォローやコメントがしやすいのではないかと感じています。例えば動物園や水族館などの例を参考に、学芸員を更に身近に感じてもらうツイートをしたり、代表的な生き物には名前を付けて定期的にツイートしたりすると、琵琶湖博物館のファンも増えるのではないかと考えます。

~~~~~

内部評価の内容は妥当であり、「継続的な運用と内容の充実化」、「双方向」性の確保など、残る課題に向けて改善計画を検討されたい。

~~~~~

5-3「来館しやすい環境の整備」：チケット等、システムのことについて記載されていますが、実際に自家用車で来られた際に、博物館への案内が不十分であるように思われます。（このことについては、会議でも話題になっていました。）5-2に少し触れていますが、内容としては5-3になるのではないかと考えます。

○事業6の目標 博物館の活動を安定して継続する

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施目標：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます</li> <li>・評価指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる</li> </ul>
<p>重点事業 6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え</p> <p>重点事業 6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり</p>
<p>・外部評価 (評価者毎に区切り線をいれています)</p> <p>今や、県の事業であれ予算ありきで消極的に進めるのではなく、『ファンド レイジング』の手法を取り入れて。(自分の水槽はすでにされていますが)琵琶湖博物館そのもののメリットは、①ファンを増やす、②PRができる、③資金集め(ファンド)のためだそうです。</p> <p>~~~~~</p> <p>新しい取り組みへの投資と老朽化施設の改修費用バランスが難しいですが、今後再び大きな事故が起きないように、まずは安全第一・健康第一で従業員および来場者が利用できる環境を整えていただきたい。</p> <p>~~~~~</p> <p>6-2: 今回の水槽破損事故については、多くの人の知るところであり、クラウド・ファンディングで呼びかけるのもいいのではと思いました。</p> <p>~~~~~</p> <p>6-1: 2022年度は「危機管理マニュアルの統合版完成」が掲げられていました。この進捗の遅れが内部評価の下向き矢印になっているのか、今年度どのように取り組んでいくのか気になります。</p> <p>6-2: 「水槽サポーター」の記載があります。今回の破損に関わらず、企業名が入った水槽などはありましたか? 確認不足で申し訳ないのですが、企業のサポーター制では、その資金をどこに使ったかの記名があるとサポーターの価値が見える化されると思います。</p> <p>今回の水槽破損は別に考え、トイレの修理は早いほうがよいと思います。</p> <p>ユニバーサルデザインの重視は重要だと感じます。</p> <p>~~~~~</p> <p>内部評価を支持します。(感想)「滋賀県が誇る博物館」としての機能が発揮できるよう、とにかくも県のお考えを聞いてみたいと思いました。</p> <p>~~~~~</p> <p>水槽破損については大変ご苦労されたと思います。調査や復旧作業などありがとうございました。ご存知かもしれませんが、データサイエンスの一つに、音や振動などのデータから異常を検知する方法があります。それらを活用すると、水槽が破損する前に危険を知れ早めの策が打てるようになる可能性があります。ご参考までに。</p> <p>~~~~~</p> <p>内部評価末尾の「重点事業実施傾向」で唯一「悪くなった」項目が「老朽化した施設の改修と災害への備え」である。水槽破損事故に続いて、いつどこで同様の、ないし、より深刻な事故が発生してもおかしくない状況にあることが何え、必要なことを優先順位をつけながら進めていくことが急務です。水槽破損事故の経緯説明を読む限り、事故</p>

発生後の初期対応は迅速に必要な手立てを尽くしており、普段からの危機管理の体制はできていて、それが有効に機能した様子が読み取れます。「長期利用停止になっている展示空間にある一部のトイレ」の早期改修など、緊急性の高いところから手を入れていけるよう、施設管理と改修に向けての予算確保とともに体制づくりを進めていく必要があります。

~~~~~

6-1「老朽化した施設の改修と災害への備え」：県立の施設であること、来館者が訪れることから、施設の改修については県に強く要望をしていく以外に方法はないようにも思います。「2月の水槽破損事故は人命にも関わる可能性があります」と記載されていますが、まったくその通りです。こうしたことが他の施設等でも起きる可能性があるのであれば、そのことを強く訴え、対策のための予算をぜひとも確保していただきたい。

## 5 事業計画の見直し

重点事業計画について見直しをした結果を示します。各重点事業の5年間の計画の中で、文字に線が入っている部分が削除する部分で、ゴシック体の文字が追加した部分です。

## ○事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介

- ・実施目標：琵琶湖やその周りの暮らしの価値を地域の人々や国内外の研究者とともに発見し、その魅力を国内外に広く発信します。
- ・評価指標：地域の人々や研究者など多くの人による琵琶湖や湖と人間の研究が発信される。

## 1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進

- ・5年間の事業：既存の研究プロジェクトのとりまとめと新しい複合分野の研究プロジェクトの立ち上げを進める。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                             | 進めること                                            |
|------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 2021 | 各年次報告書提出。                                              | 総合研究・基盤B研究の推進。<br>次期総合研究の検討開始。                   |
| 2022 | 古代湖である琵琶湖の生い立ちと固有種の進化に関する新たな知見が蓄積（基盤B）。                | 基盤B研究のとりまとめ。<br>総合研究の実施（継続）。<br>次期総合研究の内容・体制の検討。 |
| 2023 | 過去150年間の琵琶湖と人の関係の変化についての知見が蓄積。                         | 総合研究の実施（継続）次期総合研究の内容・体制の検討。                      |
| 2024 | 過去150年間の琵琶湖と人の関係の変化についての知見が蓄積に関する研究成果のとりまとめと公開。        | 総合研究の成果に基づく報告の作成と企画展示の実施。新次期総合研究の内容・体制の検討立ち上げ準備。 |
| 2025 | 過去150年間の琵琶湖と人の関係の変化についてのとりまとめ新総合研究と共同研究群による新たな取り組みの開始。 | 総合研究の成果に基づく企画展示の実施と成果とりまとめ、新総合研究の試行実施。           |

\*修正検討事項：現在進めている総合研究のスケジュール変更と、その公表の場として企画展示を計画しており、その公表のスケジュールから、琵琶湖の価値を高める研究の推進の今期を現在の総合研究に注力する計画に特化した。

## 1-2. 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える

- ・5年間の事業：ウェブを中心とした新たな研究発信方法の構築とコンテンツの充実をはかる。

| 年度   | 達成する状態（目標）                           | 進めること                                       |
|------|--------------------------------------|---------------------------------------------|
| 2021 | リサーチマップの掲出と更新。<br>J-stageへの研究調査報告掲載。 | 既存の枠組みでのウェブ発信。<br>J-stageへの研究報告書掲載手続き。      |
| 2022 | コンテンツ案策定。                            | ウェブ掲載コンテンツの検討。<br>J-stageへの研究報告書を順次掲載（以後略）。 |

|      |                                   |                                      |
|------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 2023 | 論文解説の掲載開始。                        | 論文解説ページの整備と掲載。<br>琵琶湖に関する紹介ページの内容検討。 |
| 2024 | 琵琶湖に関する紹介ページの掲載開始。                | 琵琶湖に関する紹介ページの整備。                     |
| 2025 | 琵琶湖地域に関する研究成果が、順次発信される体制が構築されている。 | 新コンテンツの検討。                           |

### 1-3. 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

・5年間の事業：耐用年数を超えたり故障した研究備品を更新し、共同利用を推進する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                                                                                     | 進めること                                                                                                                     |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 最新の備品更新計画策定。                                                                                                   | 備品更新計画の更新。<br>既存の施設備品による研究推進。                                                                                             |
| 2022 | 微小生物の分類に関する体制が整う（電子顕微鏡）。<br>希少種保全施設としての整備が進む（共同研究）。<br>順次備品が更新される。                                             | 大型備品①電子顕微鏡の調達。生物多様性共同研究による希少種保全の施設環境整備。<br>DX事業への参入挑戦。<br>その他備品類の予算要求への反映。                                                |
| 2023 | さまざまな資料の内部を非破壊観察する体制が整う（軟X線検査装置）。<br>希少種保全の取り組み（生態観察池改良・孵化飼育設備改良）が進む（共同研究）。<br>先端デジタル技術を活かした研究手法が開発される（DX）。    | 大型備品②軟X線検査装置の調達。<br>生物多様性共同研究の実施。<br>DX事業を活かした研究の実施。                                                                      |
| 2024 | 琵琶湖での観測体制継続（調査船）。<br>希少種保全の取り組み（生態観察池改良・孵化飼育設備改良）が進む（共同研究）。DX事業を活かした研究の成果が蓄積（DX）。<br>大型備品を利用した琵琶湖の共同研究の芽が生まれる。 | 大型備品調達計画の見直し（情報収集と導入順序の再検討）③調査船の更新。<br>生物多様性共同研究の実施。<br>DX事業を活かした研究の実施。<br>大形備品の共同利用の推進。<br><b>研究環境整備を重視した研究部予算の組み替え。</b> |
| 2025 | 研究環境整備と共同研究の推進による研究の活性化。                                                                                       | 大型備品②軟X線検査装置の調達。<br>新規備品等を活用した共同利用の推進。                                                                                    |

\*修正検討事項：予算調達の問題から、大型備品の調達計画を再度見直す必要がでてきたことによる変更。



○事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

- ・実施目標：貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整理・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を「だれでも・どこでも・いつでも」使えるように整備します。
- ・評価指標：整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている。

2-1. 標本・資料の管理体制の強化

- ・5年間の事業：開館から25年が経過し収蔵庫の保管環境や作業環境が悪化しているため、計画的に改善を図るとともに、IPMによる管理体制を強化する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                                                                     | 進めること                                                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 収蔵庫空間の設備の不具合の原因が把握できている。                                                                       | 収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の情報集約。<br>民俗収蔵庫1の雨漏りの原因究明と修繕。                                             |
| 2022 | 問題のある設備改修の予算申請の年次計画を立案。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。                              | 収蔵庫空間の電気、空調、排水設備等の故障や老朽化の一斉点検。収蔵庫空調用冷水バルブ修理／蛍光灯の安定器故障による照明器具のLED改修予算の要求。                          |
| 2023 | 収蔵庫空間のIPM体制の問題点が把握できている。改修工事により改善された環境。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。              | IPM体制の問題点の情報集約。環境改善に向けた予算申請。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。予算がついたものの改修工事。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。 |
| 2024 | IPM体制が改善されている。改修工事により改善された環境。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。                        | 環境改善に向けた予算申請。予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。IPM体制の改善案を検討。空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。   |
| 2025 | 再構築されたIPMにより定期的な管理体制が確立している。改修工事により収蔵庫環境が安定している。<br>空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新がなされている。 | 予算がついたものの改修工事。積み残しの問題のある設備改修の予算申請。収蔵庫環境の管理体制の構築。<br>空調および熱源設備の適切な維持管理および消耗品の定期的かつ適切な更新。           |

\*修正検討事項：館内設備に修繕が必要なものが多く、収蔵設備以外の修繕計画とも合わせて、予算獲得の問題もあることから、現状計画のとおりとした。

2-2. 標本・資料の整理の推進と公開による利用促進

- ・5年間の事業：従来より進めてきた収蔵品データベースへのデータ入力を引き続き行うとともに、画像データが付加されウェブ図鑑と連動したより魅力的なデータベースとなる。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                  | 進めること                                                            |
|------|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 2021 | ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。                 | 緊急雇用による資料撮影と新規登録。                                                |
| 2022 | ウェブ公開データベースの充実に向けたデータ入力が進む。                 | 資料写真整理体制の検討。                                                     |
| 2023 | 資料写真整理とデータベースへの登録が進む。<br>ウェブ公開のための体制が整備される。 | 資料写真整理体制の整備。<br>データベース編集作業、データベース画面デザイン、ウェブ図鑑との連携、博物館ウェブページとの調整。 |
| 2024 | データベース運営における問題点の抽出と改善方法の検討。                 | データベース運営における問題点の検討。                                              |
| 2025 | データベースがスムーズに運営されている。                        | データベース運営における問題点の改善。                                              |

\* 修正検討事項:2023年度からデジタル情報整備事業の予算が獲得できたことから、その計画に合わせて現在は本事業を実施している。

### 2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出

・5年間の事業：リニューアル後の常設展示資料情報に対応したウェブ図鑑の公開を進める

| 年度   | 達成する状態（目標）                                                                       | 進めること                                                                         |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 写場の設備計画の立案。多面的な音声ガイド情報が公開。                                                       | 写場の設備の現状把握。多面的な音声ガイド情報の整備。                                                    |
| 2022 | 写場の設備更新が始まる。3Dコンテンツを含むウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報(3Dコンテンツを含む)の蓄積が進む。                     | 写場の設備を更新。ウェブ図鑑の構築に向けた資料の画像情報の蓄積。                                              |
| 2023 | 写場の設備が整えられている。リニューアル後の常設展示資料情報が整理されている。ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3Dコンテンツの蓄積が進み、一部が公開される。 | リニューアル後の常設展示資料情報の整理。                                                          |
| 2024 | リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針が決定している。写真、動画、3Dコンテンツの蓄積と、ウェブ図鑑としての公開が進む。                   | リニューアル後の常設展示資料情報の公開方針を策定する。ウェブ図鑑の構築に向けた写真、動画、3Dコンテンツの蓄積。<br>ウェブ図鑑公開システムの追加公開。 |
| 2025 | リニューアル後の常設展示資料情報と連携したウェブ図鑑の公開。                                                   | リニューアル後の常設展示資料情報の公開における問題点の改善。                                                |

\* 修正検討事項:2023年度からデジタル情報整備事業の予算が獲得できたことから、その計画に合わせて現在は本事業を実施している。

### ○事業目標3 みんなで学びあう博物館へ

- ・実施目標：交流事業を知識や経験を交換し合う「学びあいの場」と位置づけ、さまざまな人々や組織と連携して充実を図るとともに、参加する人の相互の出会いが新たな活動につながる環境を創ります。
- ・評価指標：利用者が実施者になった多様な交流事業が実施される学びあいの場で情報交換が行われる。

#### 3-1. 幅広いニーズに応える交流事業の充実

- ・5年間の事業：利用者との対話を通じて交流事業のニーズを確認しながらメニューの充実を図る。また、交流事業の実施者の多様化を促進する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                           | 進めること                                                                          |
|------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 琵琶湖博物館全体の交流事業の現状が把握される。              | これまでの交流事業の実績を他の係の実施分も含めて整理し、現状を把握する。                                           |
| 2022 | 交流事業の充実のための計画や方針が策定される。              | 博物館が提供できる(すべき)交流事業の候補をリスト化し、さらにびわ博フェス等でニーズの確認を行う。その結果をもとに交流事業の充実のための方針を策定する。   |
| 2023 | 次年度以降の計画的なメニューの充実が進むとともに、実施者の多様化も進む。 | 交流事業の充実のため、はしかけ、外部団体等が主体となって実施するメニューの企画を実施内容に沿った担当学芸職員と相談しながら進める。継続的にニーズ調査を行う。 |
| 2024 | 多様な実施者によるメニューが試験的に行われ、課題が改善される。      | はしかけ、外部団体等が主体となった体験型メニューについて、びわ博フェス等を通じて試験的に実施し、その改善を行う。                       |
| 2025 | 交流事業が充実するとともに、実施者も多様化する。             | 外部団体等が主体となって行った交流事業の試験的实施について、館内外の人びとと共に、5年間の交流事業の実践を検証する。                     |

\*修正検討事項:現在、はしかけ等が主体となった交流事業はいくつか実施しているが、びわ博フェスの時にはさらに多様なプログラムを実施していることから、これらを通常提供する交流事業の中に位置づけることを検討していく計画を明確にした。

#### 3-2. 出会いの場の創出

- ・5年間の事業:フィールドレポーター制度やはしかけ制度およびそれらの出会い・発表の場であるびわ博フェスを基盤に、利用者層の多様性や連携性を高めることで目標を実現する。最初の5年間は団体・企業等の参入を促すため団体向けの「はしかけ制度」的なものを作る。

| 年度   | 達成する状態（目標）        | 進めること                     |
|------|-------------------|---------------------------|
| 2021 | 登録制度の概要についての整理。   | 団体向け登録制度に関する情報収集。         |
| 2022 | 制度運営に必要な要項が整備される。 | 団体向け登録制度の詳細内容を検討し、要項を定める。 |

|      |                                                                  |                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023 | びわ博フェスへの参画者層と実施者層の多様性が図られる。                                      | 登録制度を活用したびわ博フェスの実施を通じて、双方にとっての課題整理と制度の見直しを行う。                                                                |
| 2024 | 多様な個人や化 <del>した</del> 団体の参入により、新しいびわ博フェスの開催や交流事業における新たな連携や交流が進む。 | 現在の登録制度の見直しにより、改善された登録制度を通じて、 <del>カテゴリ別に増やした</del> 多様な個人や登録団体とともに企画・運営する、 <del>新しい</del> びわ博フェスの運営と企画などを行う。 |
| 2025 | 多様な出会いの機会が増え、交流事業の新たな可能性を見出せる。                                   | 様々な個人と団体が博物館を利用して実施する交流活動や連携事業の機会を増やし、 <del>新しくなった</del> 新たな交流事業を試験的に行う場としてのびわ博フェスを中心に団体登録制度や運営の見直しを行う。      |

＊修正検討事項:2022年度の計画にある団体向け登録制度の要項はできておらず、団体向け登録制度についてのサービス内容や当館と利用者双方にとっての利点などの整理が必要であることから、団体登録制度そのものの必要性に立ち返って再検討が必要であると考えた。

### 3-3. 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援

- ・5年間の事業:「深く学ぶ力」による学習では体験が重視されるが、琵琶湖学習においては教師自身の「体験」の機会が少なく有効な教材を生み出しにくい問題がある。この問題を解消するため、研修によって教師自身の「体験」を支援する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                               | 進めること                                                                    |
|------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 教師が「体験」的な教材を生み出すために役立つ研修の構築。                             | 研修内容の見直しと試験的实施。事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集。                                 |
| 2022 | 受講者の意識向上を指標に研修が改良される。                                    | 研修の見直しと試験的实施。事前・事後・1年後アンケート効果測定と実践例収集（以後、実施）。                            |
| 2023 | 受講者自身が体験を重視した学習プログラムを展開できる。                              | 学校現場の実態を把握しながら、受講者に助言を行う。                                                |
| 2024 | 受講者が自ら発案した体験学習プログラムに改良を加え実施し、他の教員と共有する。                  | 過去3年間の受講者に対してアンケートの追調査を行い実態のさらなる把握と改善されたプログラムの実績を収集し、改善前のプログラムと比較検討を始める。 |
| 2025 | 体験的な教材を主体的に生み出すことができる受講者が増加し、他の教員も体験的学習プログラムを実施することができる。 | 受講者からの評価を受け、5年間の実践を検証する。                                                 |

＊修正検討事項:“教員による体験型研修プログラムの開発”がメインの計画ですが、琵琶湖博物館だけで完結しないで、興味ある教員や、場合によっては生徒にも関わってもらい、“体験型プログラムを考えるための研修”のプログラムを検討し、さらにその研修を教員以外の人にも手伝ってもらおうような方向性を考えました。中長期の方針として、多様な人の関わり、ということ意識しています。

○事業目標4 もっと使いやすい博物館へ

- ・実施目標：琵琶湖を知る「入口」としての展示を、より使いやすく、常に成長する展示として発展させます。
- ・評価指標：湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える。

4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長

- ・5年間の事業：視覚障害者と外国語使用者への対応として音声ガイドを導入したが、その性能上、一部の展示しかカバーできていない。最初の5年間はこの問題に取り組むこととし、可能な限り多くの展示へのアクセシビリティを確保するため、新たなICT技術を用いたガイド手法を導入する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                 | 進めること                                                                                                                                               |
|------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 採用する手法の候補が決まる。                             | ガイド手法についての情報収集。                                                                                                                                     |
| 2022 | 展示室においてテストが行われ、実現性や課題が明らかになる。              | ガイド手法の試行。                                                                                                                                           |
| 2023 | 新しい手法によるガイドの内容が検証され、より拡大した使い方の検討が行えるようになる。 | 新しい方法に合わせた常設展示解説の内容について内部で検討、さらに追加・拡大の計画を策定作成と配置開始。                                                                                                 |
| 2024 | 設置済みの音声ガイドについて効果測定に基づく改良と解説項目の増加が進む。       | アプリを使用する定点の展示解説(番号つき)について、使用言語の増設および解説内容の追加を行う。アプリを使わずに利用できる音声ガイドの追加を検討し、展示室内の数箇所です試験的に導入、検証を行う。 <del>展示解説の作成と配置開始、および解説の追加・改良、小規模な効果の検証(評価)。</del> |
| 2025 | 常設展示室の展示の大半に解説がつき、アクセシビリティが向上する。           | 検証に基づいて、解説の追加、改良。利用者による評価を実施する。                                                                                                                     |

\*修正検討事項:2023年度より「ポケット学芸員」を主な音声ガイドとしたため、次の段階として日本語以外の言語を増やして利便性を高めることを重視した。また、定点の展示解説以外に、アプリを使わずにQRコードなどで読み取れる解説(音声ガイドとしての機能も持たせたもの)の増設も検討し、試験的な導入の後で本格的な活用を目指す。

4-2. 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

- ・5年間の事業：展示室から現場の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ仕組みを、インターネットの利用により実現する。外部から展示室を利用する方法については重点事業5-1で展開し、6年目以降に両者を活かしたプログラム作りを進める。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                  | 進めること                                               |
|------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 2021 | 方法の検討と小規模な試行。                               | 方法の検討と小規模な試行。                                       |
| 2022 | 展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みについて情報が得られる。 | 博物館から現場の情報を取得する仕組みを一部の展示を使って試し、展示室外の情報へのアクセス数などを検証。 |

|      |                                                 |                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023 | 展示から現場の情報・より詳しい情報をとりに行く行動を促す仕組みが強化される。          | 博物館から現場の情報を取得する仕組みを試す範囲を拡げると同時に、取得する情報の内容を精査。                                                                                                                       |
| 2024 | 展示室から外の情報にアクセスすることでより展示を楽しむ利用方法が来館者に認知されるようになる。 | 展示室から取得できる情報の内容、案内の設置場所や位置づけを検討し、増設を進める。博物館で構築しているウェブ図鑑、バーチャルミュージアム等のコンテンツも利用する工夫をし、アクセスを容易にする案内等を設置する。 <del>博物館から現場の情報を取得する内容について検証し、必要な情報のブラッシュアップおよび追加を行う。</del> |
| 2025 | 展示室と現場をつなぐ楽しみ方の認知が広がり、一般に利用されるようになっていく。         | 展示室から取得できる情報について、内容や利用状況(頻度等)について検証し、増設および更新の方法等を検討する。 <del>仕組みの充実。</del>                                                                                           |

\* 修正検討事項:この部分は、現行の試験的な設置を発展させ、さらに展示室からの情報取得が容易にできるよう、いろいろなアクセス方法を準備するよう整備を進める。さらに、博物館で別途整備しているウェブ図鑑、さらに収蔵資料等を利用できるバーチャルミュージアムなども活用することにより、博物館らしい学びが展示室においてより深く楽しく体験できる環境を整えること目指す。

#### 4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

・5年間の事業:常設展示の情報の見直しと修正を検討し、予算が削減された状態でも可能な展示更新を実施、今後の大規模更新に備えて準備を行う。

| 年度   | 達成する状態(目標)                                                                                                                | 進めること                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021 | C展示・水族展示の更新計画。                                                                                                            | C展示・水族展示の更新計画を策定。                                                                                                                                         |
| 2022 | C展示・水族展示の小規模な更新。                                                                                                          | 経常予算でのC展示・水族展示の更新、予算規模に合致した更新計画の見直し。                                                                                                                      |
| 2023 | C展示・水族展示の小規模な更新、C展示・水族展示の大型更新のための予算要求提出。                                                                                  | C展示・水族展示の小規模な更新、予算措置が必要な更新(一部)の予算編成。                                                                                                                      |
| 2024 | 水族展示の水槽の再構築(「みんなでつくろう水族展示!」)。常設展示全体で、研究成果や展示経験を生かした展示内容の更新および機器類の更新を実施。<br><del>C展示・水族展示の更新の一部実現。<br/>A展示・B展示の更新計画。</del> | 水族展示の破損水槽を含めた大規模修繕を実施。C展示における展示の不具合解消等を含めた更新計画を可能な範囲で実施し、予算措置が必要なものを精査して予算編成・要求を行う。A展示・B展示の中規模更新計画を準備する。 <del>C展示・水族展示の大型更新(一部)の実施、A展示・B展示の更新計画を策定。</del> |
| 2025 | C展示・水族展示の中規模更新の一部実現、 <del>A展示・B展示の更新の一部実現。</del><br>A展示・B展示の大型更新計画を策定。                                                    | C展示・水族展示のある程度の予算措置を伴う中規模の大型更新(展示内容、展示手法、機器類一部)の実施。経常予算でのA展示・B展示の更新。A展示・B展示の予算措置が必要な更                                                                      |

|  |            |         |
|--|------------|---------|
|  | ための予算要求提出。 | 新の予算編成。 |
|--|------------|---------|

\*修正検討事項:2022年度末に水族展示室の水槽破損が発生したため、実質的に2023年度の目標達成が困難になった。また老朽化した設備、機器類の破損も相次ぎ、展示内容の継続等について検討が必要になったため、年次計画を実質的に1年ずつ延期する。全体として、大規模更新というのはこれまでの予算のつき方から考えても現実的ではないと思うので、少し控えめな表現にした。もし、それなりの予算措置を伴う展示更新の計画を、今期の「中長期計画」に入れ込むなら、練り直しが必要。

## ○事業目標5 より多くの人が利用する博物館へ

- ・実施目標：ICTを活用し「世界」を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます。
- ・評価指標：館内および館外からも利用がしやすくなり利用が増える。

## 5-1. ICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

- ・5年間の事業：ウェブサイト「もう一つの琵琶湖博物館」(バーチャルミュージアム)と位置づけ、サイトだけでも琵琶湖(湖と人間)について学べるように情報を発信する。また、展示室のようすや展示解説も掲載し、疑似的な来館を実現する。最初の5年間は枠組みづくりを中心に進める。

| 年度   | 達成する状態(目標)                                            | 進めること                                                             |
|------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 2021 | 発信計画の素案ができる。<br>ウェブサイト改良の第一段階が終了。<br>展示紹介動画ができ、公開される。 | 発信計画の検討。ウェブサイト再編成(サイト統合)。博物館紹介動画(展示概要)作成。<br>ウェブサイト再構成。博物館紹介動画作成。 |
| 2022 | 地域の人々の発表した内容が公開される。                                   | びわ博フェスでの発表内容紹介ページの作成。研究発信解説ページの作成。                                |
| 2023 | 琵琶湖の概要情報の発信ページできる。<br>博物館で新たに明らかになったことがわかりやすく発信される。   | 各ページのコンテンツ作成、掲載開始。<br>琵琶湖紹介ページ動画の計画。アクセス解析を実施。                    |
| 2024 | アクセス解析により、アクセスを増やすためのルート改善が進む。                        | アクセス解析およびページの改良。<br>コンテンツ掲載継続。琵琶湖紹介ページ動画作成。                       |
| 2025 | ウェブサイト上で「湖と人間」について学べるようになっている。琵琶湖博物館の疑似的な来館が可能になっている。 | 発信計画のみなおし。<br>琵琶湖紹介ページ動画アップ。<br>アクセス解析。                           |

\* 修正検討事項：業務量との関係から編集が大変な動画制作ではなく、ページでの表示を中心に制作を検討する。可能であれば動画制作を実施。

## 5-2. 双方向の広報や各種調査・評価による情報収集と事業への反映

- ・5年間の事業：琵琶湖博物館の社会貢献を測定し、事業に活かせるような仕組みを運営できる組織体制を確立する。

| 年度   | 達成する状態(目標)                         | 進めること                                     |
|------|------------------------------------|-------------------------------------------|
| 2021 | 博物館の状況を客観的に評価するための手法、目的や指標の検討を行う。  | 調査・評価方針の検討。                               |
| 2022 | 博物館の状況を客観的に評価するための調査・評価手法を選定する。    | 調査・評価方針の検討。                               |
| 2023 | 来館状況などの変化や傾向を理解し、展示利用の来館者の傾向を把握する。 | 過去のアンケート調査結果の見直し調査。<br>予算を伴わない調査・評価方法の検討。 |



|      |                                       |                                                                        |
|------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 2024 | 展示以外の事業についての部分的な評価が理解され、その改善方針が検討される。 | 展示以外の利用についての調査・評価方法の検討と一部実施。 <b>学校等団体の利用に関するヒアリング解析</b> 。結果から改善について検討。 |
| 2025 | 博物館の状況を客観的に示せる。                       | 評価の実施と改善の検討。開館 30 周年に向けて来館者動向の变化解析。                                    |

\* 修正検討事項: 企業等にアンケートをとることをすすめる意見をうけ、学校や企業等団体への利用についてのヒアリングのまとめを行って解析を検討する。

### 5-3. 来館しやすい環境の整備

- ・ 5 年間の事業：予約システムによる来館者の分散は 2020・21 年度実績より現実的でない判断。キャッシュレス・チケットレス環境は前倒しの整備となったため、2022 年度をもって終了予定。ほかに想定される、多言語対応やユニバーサルデザインの推進は事業目標4にて実施する。公共交通機関の充実については、前中長期計画の取組結果より、期間を区切って結果を達成するのは極めて困難と判断し、継続的に模索するものの、重点事業化はしない。

| 年度   | 達成する状態（目標）                     | 進めること                                                             |
|------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 2021 |                                | 予約システムの活用方法の検討。<br>キャッシュレス・チケットレスの導入。                             |
| 2022 | キャッシュレス・チケットレス導入による<br>利便性の向上。 | 利用実績に基づくキャッシュレス・チケットレスの<br>対象会社の拡張。                               |
| 2023 | 駐車場から博物館への道について修<br>正方針が定まる。   | 駐車場から博物館までの道について、来館しやす<br>い道への修正の検討。博物館にとっての来館しやす<br>い環境とはなにかの議論。 |
| 2024 | 来館しやすい環境のソフト面について<br>一部が改善される。 | <b>駐車場から博物館までの誘導についての改良。</b><br>来館しやすい環境としてソフト面で改善方法の議<br>論と実施。   |
| 2025 |                                |                                                                   |

\* 修正検討事項: 懸案になっている駐車場から博物館までの誘導方法について、改良する計画を追加。2025 年の計画と目標ができていないことが課題であるが、2026 年度以降の計画と合わせて検討をしていきたい。

○事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

- ・実施目標：老朽化した施設の改修や、災害に強い体制の確立を進めるとともに、活動基盤の安定のために、さまざまな支援を受ける仕組みづくりを進めます。
- ・評価指標：安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる。

6-1. 老朽化した施設の改修と災害への備え

- ・5年間の事業：「災害に強い」を重視し、災害に耐えられるような資料の保管環境を実現する改修を優先的に進めるとともに、危機管理体制の見直しを行う。

| 年度   | 達成する状態（目標）                                                     | 進めること                                                           |
|------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 2021 | 改修・危機管理の改善に向けた準備。                                              | 改修更新個所の洗い出しと分類。<br>危機管理項目の頭出しと既存マニュアルの再収集・整理。                   |
| 2022 | 改修更新計画。危機管理マニュアル。                                              | 建物・施設改修更新計画完成。<br>危機管理管理マニュアル統合版完成。                             |
| 2023 | 施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。                                           | 標本・資料の保管環境整備開始。<br>危機管理のための体制整備着手、訓練・研修計画作成。 <b>施設整備調査の実施。</b>  |
| 2024 | 施設改修の進捗。危機管理体制整備の進捗。                                           | <b>施設設備修繕計画の検討。</b> 標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。マニュアルに基づく訓練・研修。 |
| 2025 | 計画に基づいた建物・施設の改修が、優先順位の高い標本・資料の保管環境から進んでいる。危機管理マニュアルが職員に浸透している。 | 標本・資料の保管環境整備継続。建物関係の改修・更新開始。危機管理マニュアル改訂作業開始。                    |

\* 修正検討事項：施設設備の不具合力所が多いことから、中長期的な修繕計画が必要である。また、水族展示室の大型水槽破損などを契機に、災害・事故時の対応について再度見直し、再検討が必要と考えた。

6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

- ・5年間の事業：支援の受入制度の整備と安定化をまず実現する。

| 年度   | 達成する状態（目標）                        | 進めること                                                          |
|------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 2021 |                                   | リニューアル後の博物館支援の受入制度の試行。                                         |
| 2022 | びわ博サポーター制度を利用しやすくするための検討が進む。      | 支援の受入制度の課題の抽出と最適化のための検討。                                       |
| 2023 | 制度の改善のために必要な <b>行政</b> 手続きが進められる。 | 最適化のための <b>手続きの検討・実施。</b><br>企業・団体・個人等の賛同を得られるような資金調達方法の調査・検討。 |
| 2024 | 改良された制度が始まる。                      | 支援の受入制度の <b>見直しと運用開始。</b><br><b>期間限定の支援方法を併用して実施。</b>          |

|      |                              |             |
|------|------------------------------|-------------|
| 2025 | 企業・団体・個人等から支援を受ける仕組みが確立している。 | 支援の受入制度の運用。 |
|------|------------------------------|-------------|

\*修正検討事項:水族展示室の大型水槽破損と、それに伴う水槽の安全性見直しなどから、修繕等のための新たな支援方法について、たとえば2023年度はクラウドファンディングを実施中である。このような、ある目的のための期間限定の支援制度を確立に向けた検討を実施していく必要がある。

滋賀県立琵琶湖博物館 第三次中長期基本計画  
令和4年度事業評価報告書

令和6(2024)年2月  
発行 滋賀県立琵琶湖博物館